



平成23年6月26日発行(年2回発行) 東京消防庁企画調整部広報課 〒100-8119 東京都千代田区大手町1-3-5 電話:03-3212-2111(代表) ホームページ: http://www.tfd.metro.tokyo.jp

主な掲載内容

- <2面> 地震その時10のポイント 建物の安全に関する情報
- <3面> 家具類の転倒・落下防止対策 非常用品を備えておこう 地域防災力の向上 本所防災館 東京消防庁救急相談センター
- <4面> 東日本大震災 東京消防庁 被災地へ 避難場所と避難所 防災・危険物標語大募集! プレゼントコーナー 東京都からのお知らせ



東日本大震災その時...

3月11日14時46分ごろ、宮城県三陸沖を震源とするマグニチュード9.0、最大震度7の大きな地震が発生しました。この東日本大震災では、地震とともに太平洋沿岸を中心に大津波が発生し、東北地方から関東地方の太平洋沿岸にかけて甚大な被害があり、多数の死傷者・行方不明者が発生しました。東京消防庁は、震災非常配備態勢を発令し、この未曾有の大災害に立ち向かいました。

都内は...

千代田区で震度5強の大きな揺れを観測し、東京消防庁管内においても地震に伴う火災、救助、救急事案が多数発生しました。

また、江東区内の一部で土砂が噴出するなど液状化による被害も発生しました。津波による被害はありませんでしたが、中央区晴海では1.5mの津波を観測しています。

火災 都内で発生した火災

東京消防庁管内では、東日本大震災に伴い余震も含め34件の火災が発生しました。

事例1 電気ストーブ・ガステーブル

地震により室内の本棚が倒れて、本棚から落ちた雑誌などが電気ストーブの上に落下し電気ストーブのスイッチが入り、まわりに落ちた雑誌に着火して出火しました。



また、同様にキッチンで転倒した棚が、ガステーブルの点火スイッチを押下したため点火し、棚に積まれていた布に着火して出火した事例もありました。

事例2 観賞魚用水槽のヒータ

地震の揺れで観賞魚用水槽が転倒し、水槽内にあった観賞魚用ヒータが衣類の上に落下し、衣類と接触して過熱し出火しました。



事例3 白熱灯スタンド

地震で白熱灯スタンドが転倒して、布団に接触し、出火しました。



救急 都内で発生した救急搬送

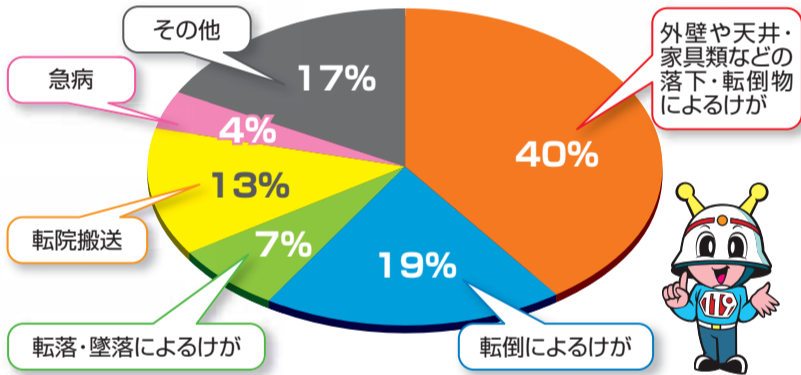
東京消防庁管内では、東日本大震災で195名の方が救急車などにより搬送されました。地震時、避難の際に階段で転倒したり、あわてて避難しようとして足をすべらせ転倒し、けがをした方が多数発生しました。

また、仕事中に会社の書類棚が倒れたり、自宅内で寝ていたところ、鏡台が倒れてきてけがをするなど、地震により家具類が転倒・落

下して、けがをした事案も多く発生しました。

その他、外へ避難した際に、外壁やブロック塀が崩れて体に当たりけがをした方や割れたガラスを踏み、けがをした方もいました。

<東日本大震災における救急搬送状況 東京消防庁管内>



津波から身を守るには?

- 1 テレビやラジオなどの津波警報に注意しましょう。
- 2 海岸近くにいる時は、急いで近くの高台やビルの高層階、指定の避難場所に避難しましょう。
- 3 津波は、すぎ去ったからといって安心はできません。しばらくは避難したところから離れないようにしましょう。

一人ひとりが地震に備えよう。

東日本大震災や過去に起きた地震における災害の教訓を踏まえて、私たちが今できることは、少しでも被害を軽減することができるよう、一人ひとりが地震に備えることです。いつか準備しようではなく、今準備しておくことが大切です。

自分自身と大切な家族そして地域を守るために、しっかりと地震に備えましょう。



【ご注意】
「防災メモ」は、本紙4ページの「Miniコラム」をご覧ください。
また、「防災メモ」は、東京消防庁ホームページ「広報とうきょう消防 WEB版」にも掲載しております。ダウンロードもできます。http://www.tfd.metro.tokyo.jp

防災メモ

一時集合場所 _____

避難場所 _____

避難所 _____

避難場所:地震などによる火災が延焼拡大して地域全体が危険になったときに避難する場所。避難所:災害により住宅を失った場合に一定の期間避難生活をする場所。避難方法は各区市町村によって異なります。地域の各区市町村に確認してください。